

企画展

年のついでに春はまき「けり」—とせき「けり」を「わ」に「か」

# 春めづる和歌

## 2008年

### 2/21木～5/20火

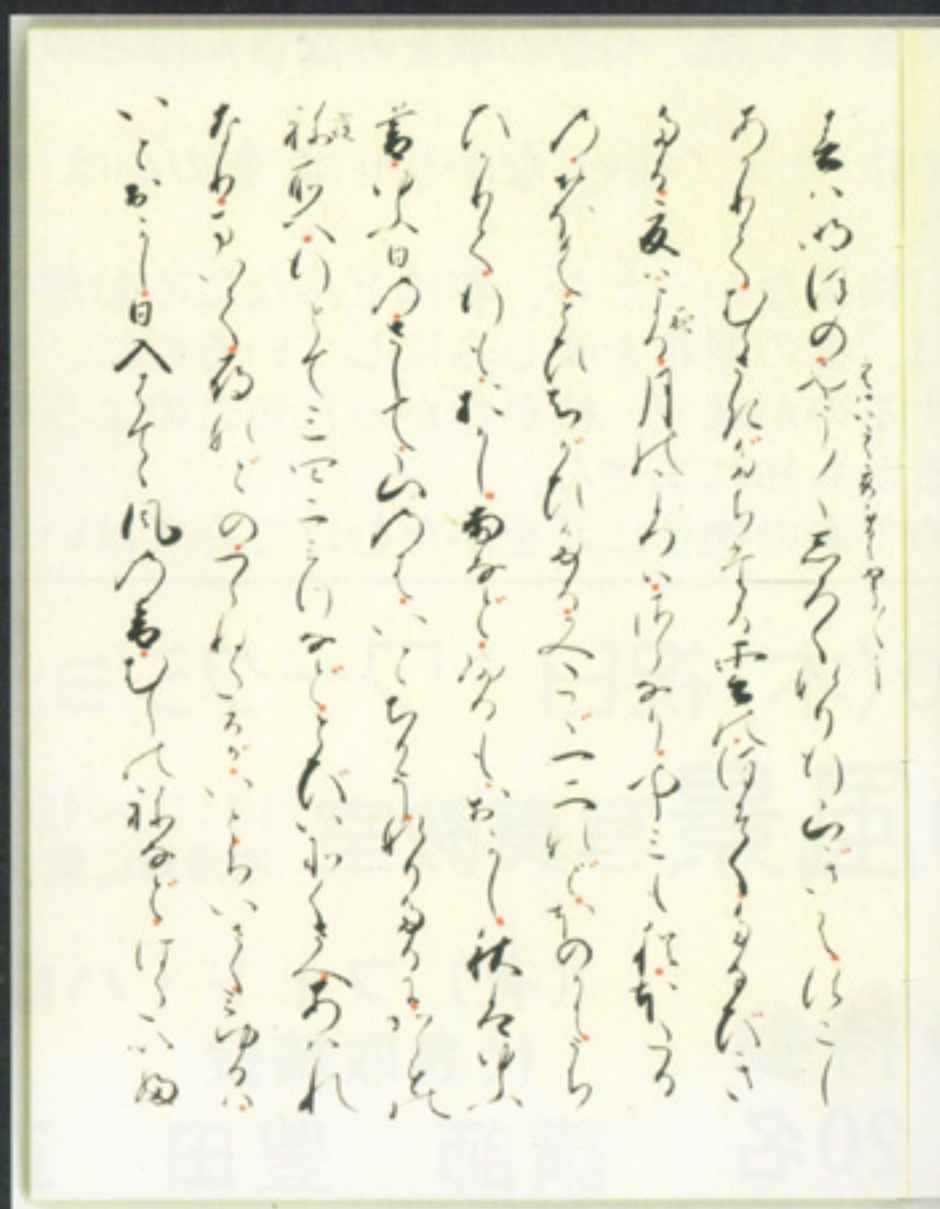
休館日：3/19水 4/16水

入館受付時間：9:00～16:30

●3/20(木)ワークショップ

春の風景写真教室

くわしくはチラシ裏面をご覧ください



枕草子(レプリカ) 春は明ほの(原本は大東急記念文庫)

観覧料※( )内は20名以上の料金

一般 320円(260)

学生・生徒 210円(160)

小学生 160円(110)

つきの方は観覧料を免除されます。

障がい者手帳をお持ちの方

満65歳以上の方

土曜・日曜は、市内の小学生と生徒

年齢・住所・身分を確認させていただきます。

なごそのせき

### いわき市勿来関文学歴史館

〒979-0146 福島県いわき市勿来町関田長沢6の1 電話とFAX:0246(65)6166

(財)いわき市公園緑地観光公社

URL: <http://www.iwakicity-park.or.jp/bungakurekisikan/>





## 春めでる和歌（わか）

春は四季のはじまりであり、『古今和歌集』以来、天皇の命によって編集された、21集にもおよぶ勅撰和歌集の歌題の筆頭もまた、春歌でした。

日本の古い随筆の一として名高く、あるいは歌枕をまとめた本としてとらえなおされている清少納言『枕草子』の冒頭もやはりつぎのとおりでした。

春はあけぼの。やうやうしろくなりゆく山ぎは、少しあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

日本の現代社会では、春は別れの季節であり、あらたな出会いの季節でもあります。ある学校では、卒業し巣立っていく人と新たな気持ちで入学する人とがあります。またある職場では、栄転し慣れた職場を離れる人と晴れて希望に胸をふくらませ入社する人とがいるかも知れません。

こんな季節を、むかしから日本人は5・7・5・7・7のリズムにのせて和歌（わか）にしてきました。つぎの歌をみなさんはどのように感じますか。

世の中に たえて桜の なかりせば 春の心は のどけからまし

世間に、桜がなかったら、春はどんなに心おだやかなものだろうという歌です。ある人は、桜の開花を楽しみにしているのに、ウソという鳥に花芽を食べられてがっかりするのが嫌で、桜がなかったらこのような心配をしなくてすむのになあと思っているかも知れません。

あらためて春の物音に耳をかたむけてみてはいかががでしょうか。

## ●3/20(木)祝日 ワークショップ

### 春の風景写真教室 10:00~12:00 吹風殿に集合



カメラ持参

定員 20名

(有) フォト・ハウスとよだ  
代表取締役

講師 豊田 正道 先生



ご自身は写真店を営んでいる豊田先生に写真のいろはを習います。

カメラワークショップの入門篇です。ご愛用のデジタルカメラをご持参ください。

先着20名様まで受付ます。お電話でお申込ください。

申込期間；2月21日(木)～3月13日(木)

お問合せ先は 勿来関なこそのせき文学歴史館 0246 (65) 6166

